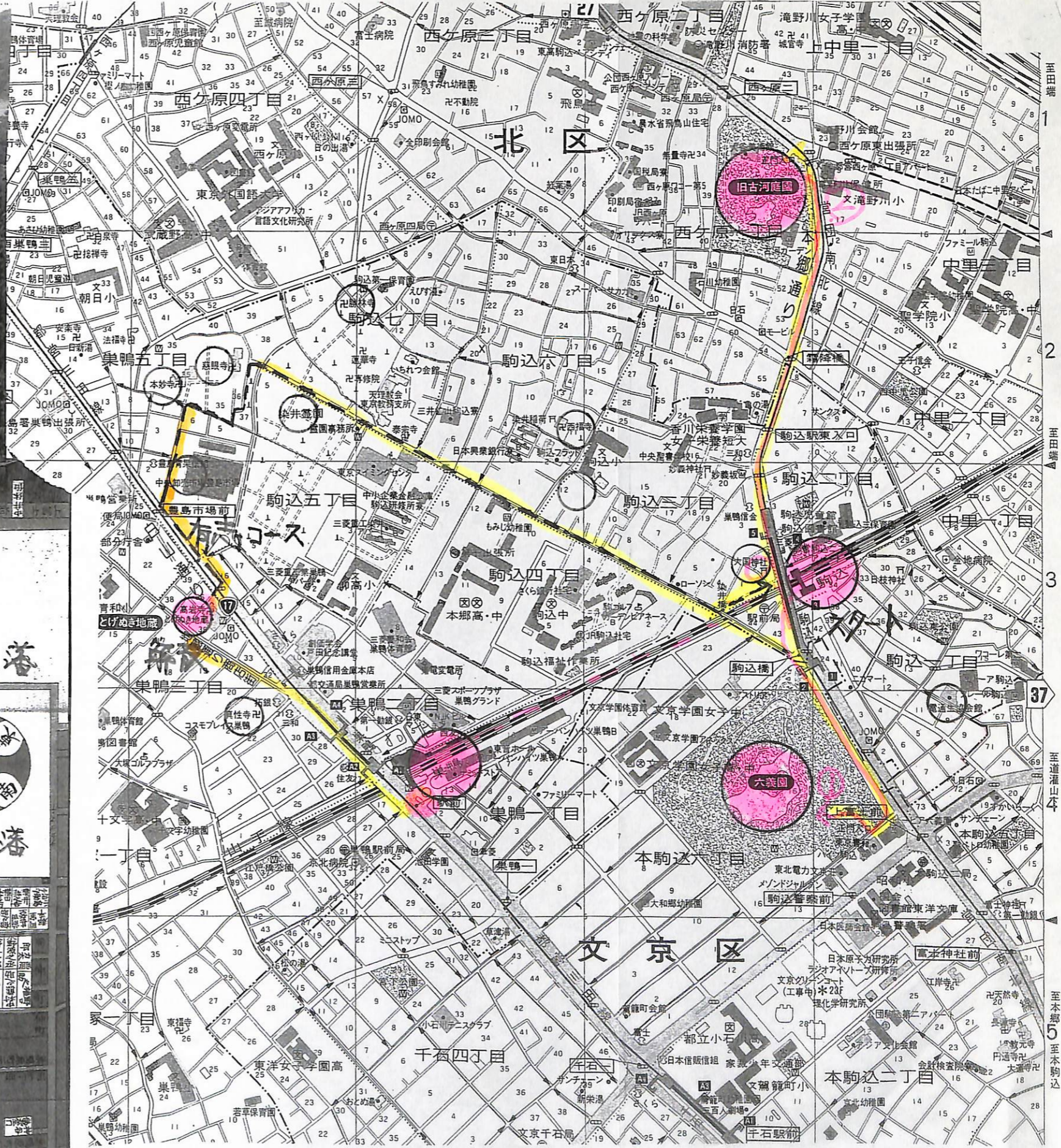
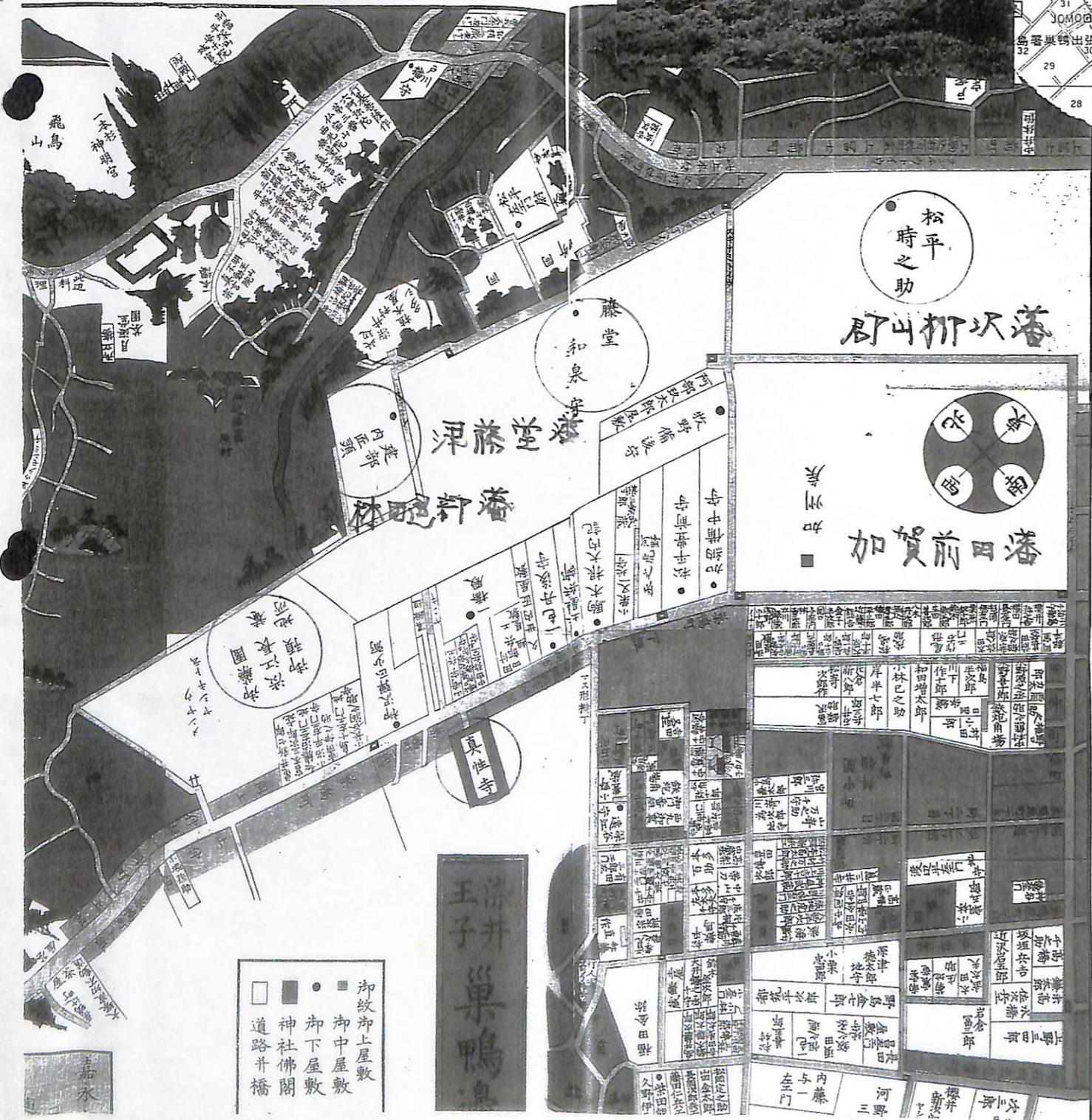


高鷲津



旧台河庭園

六義園 →



二案内コース

← 赤米年内9江戸町絵図

2

至道灌山本

至本郷5至本駒込

1km

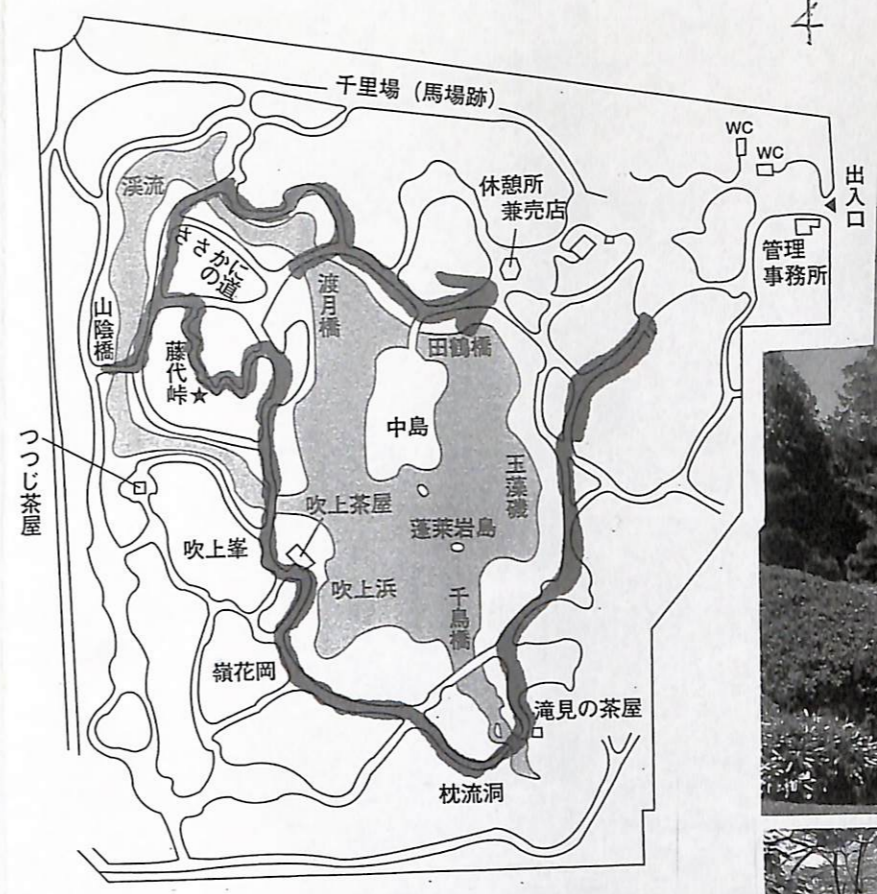
城と史跡を歩く会第32回「柳沢吉保の六義園と旧古河庭園、とげ抜き地蔵を歩く」ご案内資料	
<日時>	平成16年6月2日(水曜日=予備日4日)
<交通機関>	乗車券=東京自由乗車券1810円(八幡宿、五井乗車者) 往路=八幡宿8時09分、蘇我16分着、29分または36分発(③番線京葉快速=先頭1~3両乗車)東京9時19分着、④番線山手線、駒込10時ころ着、南口集合、開会式。移動=駒込→巣鴨(1駅=自由乗車券圏内) 有志全コース組復路=駒込、東京(京葉線)蘇我経由、八幡宿18時30分ころ着
<主要行程>	六義園、旧古河庭園、真性寺、高岩寺。(以降有志のみ)本妙寺、染井霊園
<会費徴収>	受付時に六義園、旧古河庭園入園料を含め <u>1000円を徴収します</u>

ご案内 山岸弘明

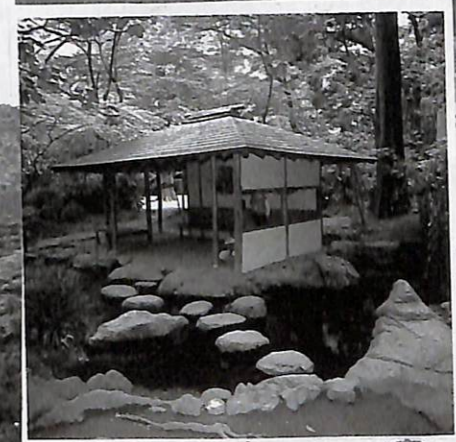
- はじめに(地名の由来)
 - 駒込=駒(馬)が群がっていた
 - 巣鴨=鴨が群れ住む池地
 - 染井=染井という泉。布を染めるのによい水がわくとも
- 岩槻街道と日光街道(本郷通り=豊島区駒込、文京区本駒込)
 - 本郷から旧岩槻街道を。都心側は東京大学、湯島、後楽園、神田方面へ。
 - 岩槻街道=追分の一里塚(東大前)で中山道と分かれ、駒込、西ヶ原、飛鳥山、王子、岩淵の渡しをへて岩槻へすすむ本往還。
 - 日光御成道=日光への将軍家御成街道。戒厳令のような警備体制で守る。街道住民が迷惑。将軍の日光御成り、通算19回、うち家光10回、天保14年家慶御成りは供18万人、幕府支出18万両
- 六義園(文京区本駒込)
 - 5代将軍綱吉の寵臣柳沢吉保が元禄8年に作った、幕府絶頂期の代表的江戸大名庭園
 - 柳沢吉保=160石370俵の旗本の家生まれ18才から綱吉の小姓。将軍身辺の雑務の一方学問弟子として寵愛される。31才で1万石大名、以後も加増を繰り返して川越7万石、甲府15万石、側用人、老中、大老。綱吉を補佐したが、世界に例をみない悪法生類あわれみの令の積極推進者でも。
 - 綱吉の御成り=50数回。ダントツ第1位。数百人~数千人の供従える。
染子の方=綱吉の元側室で吉保下げ渡し、妻娘と接待?
 - 六義=中国古書・詩経の分類、根本六義から。御殿は六義館、庭園は六義園
 - 回遊式築山泉水庭園(池泉回遊式庭園と区別)敷地面積4万6千坪(現在は2万7千坪)
全員で大池を中心に左回り一周。
 - 玉藻磯付近の景観=芝生と松の向こうに広い池泉。シネマスコープのように美しい。大池、対岸の吹上浜、吹上茶屋、中島、岩島を望む。
 - 滝見茶屋付近の溪流=清流が岩間から落ち、溪流となって流れる。清流のせせらぎに聞き入る。もと千川上水の落とし水、現在は水道。滝石組、水分石、鰐の頭のような岩、溪流
 - 藤代峠=紀伊の景色を写したという。かつて富士山や筑波山が望めた。頂上四角い石は綱吉愛用の腰掛け。吉保や染子と語らう。
 - 山蔭橋付近の景観
 - 渡月橋=京都嵐山を写す。2枚の大石橋を巨岩が支える。重量感あり、眺めは幽玄の世界に



←岩槻街道



六義園

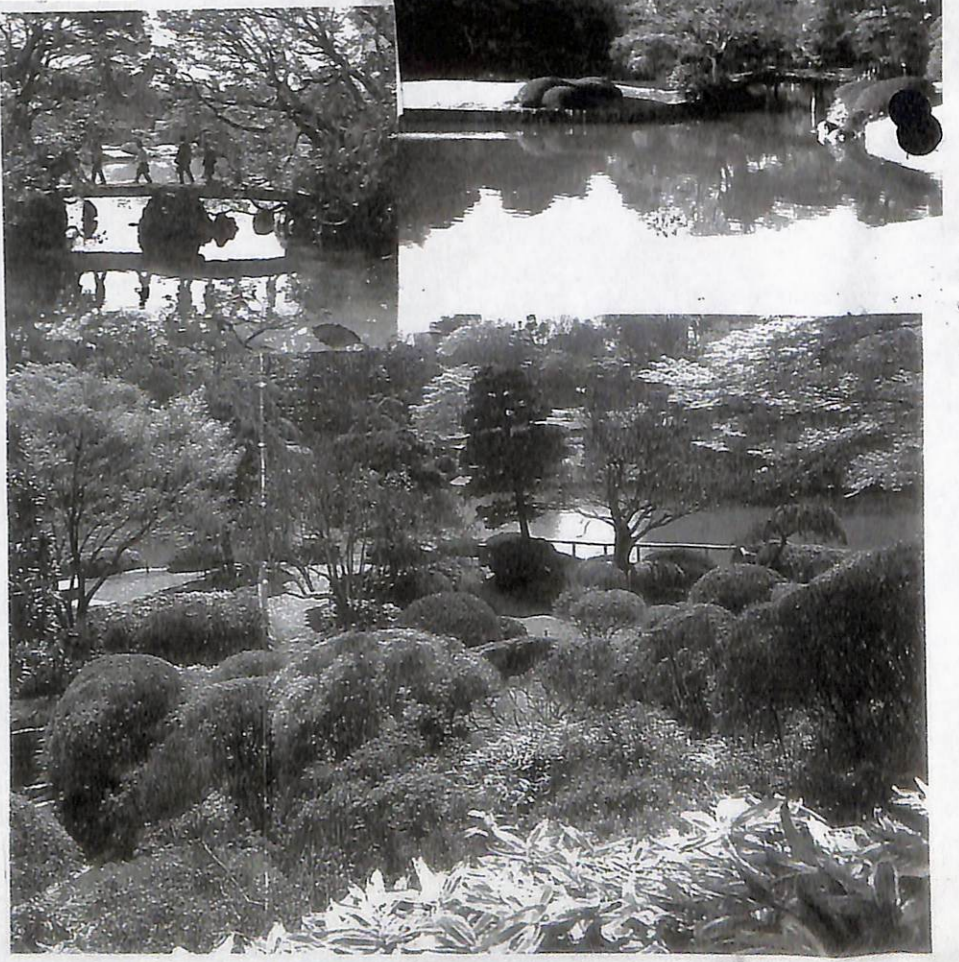


←滝見の茶屋

↓中島



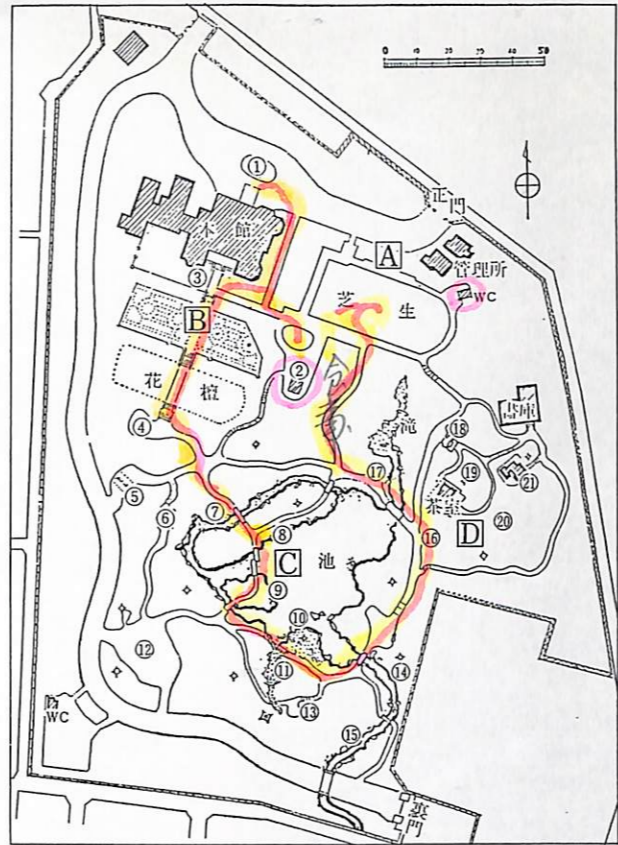
↑藤代峠が ↓柳沢吉保 渡月橋



- 4) 本郷通りの道々に (駒込、本駒込)
- ① 殿中 (六義園周辺の本郷通り駒込駅あたり) = 綱吉の御成りに従った従者たちの待機所。従者目当ての茶店ができたかも殿中の観から。
 - ② 福寿院尼院跡 (福寿院ビル) = 曹洞宗の尼寺。上駒込名主高木家の娘桂林院殿開基。江戸城大奥の勤めを辞し一字を開基、10人扶持を賜う。歴代高木一族が庵主。大奥女性など帰依。最盛期は尼僧50人。明治維新後の廃仏毀釈で衰微
 - ③ 木戸孝允 (桂小五郎) 邸跡 (生協ビル) = 明治元勲の桂小五郎の別荘で没地。明治天皇も病床見舞うが西郷隆盛と同じ明治10年逝去。最後の言葉は「西郷、もう大抵にせぬか」
 - ④ 木戸邸は市原ゆかりの旗本 (一時大名) 本郷丹後守下屋敷跡。周辺は辺りないなか、白い老狐が住み付き中間が毎日餌を与えたという。
 - ③ 染井通り = かつて日光街道駒込と中山道巢鴨を結ぶ間道。別掲江戸切絵図には「このあたり染井村植木屋多し」。明治、大正時代はみごとな染井吉野桜のトンネルに。
 - ④ 駒込橋 = 山手線のために作られた新しい橋。JR線も川跡ではない
 - ⑤ 大国神社 = のちに11代将軍となる一ツ橋世子時代の家斉が参詣したところ11代将軍に。出世大黒の別称も。

- 5) 旧古河庭園 (昼食 = 北区西ヶ谷)
- ① 明治の政治家陸奥宗光邸。その子潤吉の古河市兵衛養子縁組にともなって古河家に持参された。市兵衛は明治時代足尾銅山など全国産銅量の4割を独占した銅山王で古河財閥を築いた。
 - ② 西洋館と洋式庭園はイギリス人建築家コンドルが設計、日本庭園は京都の庭師が作った。
 - ③ 戦後、財閥解体の余波で物納財産として大蔵省所管、昭和31年都立公園で一般公開された。
 - ④ 本館 = わが国の建築界黎明期に貢献したコンドル晩年の傑作。近年、内部も一般公開されたが、今回は外観見学にとどめる。
洋風花壇 = 本館下斜面に広がる。つつじ、さつき、ばらなど四季それぞれの花模様が調和する。たまり場 = 庭園一番の見どころ。本館、洋風花壇を見上げる。
心字池回遊 = 深山溪谷の境。荒磯、枯滝、滝見台、沢渡りなど、園路の移り変わる景観を楽しむ。
茶室周辺、芝生 = 閑雅な露地様式から一転、広い洋風庭園へ。
展望台 = フィナーレに庭園全景を見渡す。

壽地蔵 江戸後期



- 旧古河庭園平面図
- | | | |
|-------|--------|-------|
| ①車寄せ | ⑧船つき石 | ⑮沢ながれ |
| ②展望台 | ⑨中島 | ⑯乱石積 |
| ③テラス | ⑩磯 | ⑰滝見台 |
| ④たまり場 | ⑪枯滝 | ⑱庭門2 |
| ⑤庭門1 | ⑫自由広場 | ⑲露地 |
| ⑥やすみ所 | ⑬見晴台 | ⑳もみじ台 |
| ⑦深山溪谷 | ⑭しょうぶ田 | ㉑上の茶屋 |

● 洋館 ●
この庭園は、洋館を抜きにしては語れません。英国貴族の邸宅にならった古典様式で天然スレートがきレンガ造り。外壁は真鍮産の赤味をおびた小松石 (安山岩) で覆われており、雨にぬれると落ち着いた色調をかもします。また、内装の気配りも見逃せません。

● 洋風庭園 ●
テラス式の庭園に植えられた「バラ」は、春と秋に見事な花をつけ、洋館にマッチして異国情緒を満喫させてくれます。石垣には、秋篠宮家の長女桐子様の「お印し」のモッコウバラ (木香菜) がびっしりと被っています。

● 日本庭園 ●
日本庭園の中心を形づくる心字池。優雅な曲線のおりなす汀線は心をいやしてくれます。大滝・枯滝、そして大型雪見灯籠が周囲の緑に映えて、この付近の風情を一層深いものにさせています。



高岩寺
とが抜商店街
旧中山道



← 大国神社



No. 036
東京都立
旧古河庭園

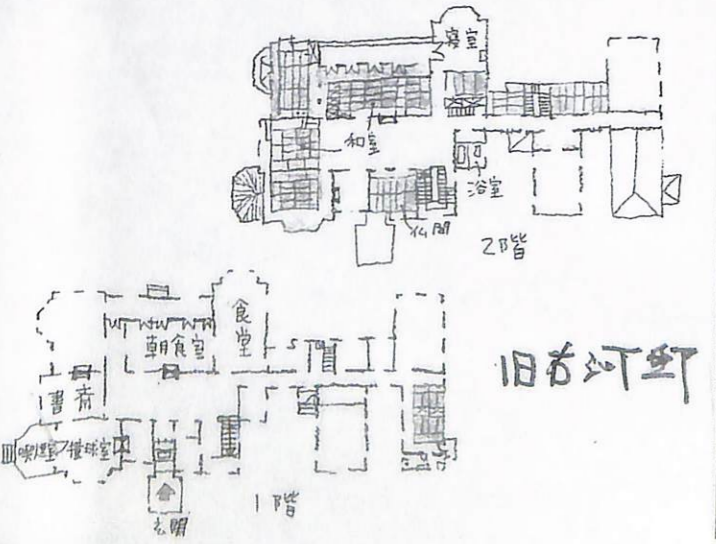


旧古河庭園

↓ 真地寺 ↑ 日本庭園



とが抜き地蔵



旧古河野

6) 駒込から巣鴨へ移動

- ① JR駒込駅に戻って1駅移動。東京自由乗車券圏内。新たに乗車券購入の必要はありません。
- ② 中山道=5街道の1つ。板橋、高崎、軽井沢、木曾路をへて東海道の草津宿に合する。本郷で岩槻街道と分かれるがしばらくは両街道が平行して走る。

7) 真性寺 (豊島区巣鴨)

- ① 真言宗豊山派。創建不詳、元和元年中興
- ② 江戸6地蔵=深川の念仏行者武蔵坊正元が江戸中期、江戸の街道入口に建立した6体の青銅製地蔵。本会では南品川品川寺、深川霊巖寺に続く3体目。真性寺の6地蔵は巣鴨の地蔵の元祖だがとげ抜き地蔵の出現で影が薄い。

8) とげ抜き地蔵 (高岩寺)

- ① 曹洞宗。正式には万頂山高岩寺。慶長元年下谷で創建、明治23年現在地へ。
- ② 本尊延命地蔵菩薩。江戸時代から「とげ抜き地蔵」で有名。江戸はじめ長州藩下働きの女中が誤って折針を飲みこんでしまう。痛がる女中が本尊の尊影を飲むと飲むと折針を吐き出したという。ほかにも妻を病氣から救った男などの伝説。人間のとがをも抜いて万病に霊験あらたかと伝わる。
- ③ 洗い地蔵の初代は引退してお姿だけ。2代患部をたわし転じた布で洗うと病が直るといふ。

9) 解散

- ① 高岩寺境内で一応の解散とします。解散組は周辺のとげ抜き地蔵商店街でゆっくり買い物を。
- ② 元気組有志はさらに周辺の史跡を散策します。

有志コース (およそ1時間=進行状況で内容を変更することがあります)

- 10) 菜園跡 (青果市場) (豊島区巣鴨)
 - ① 菜園=幕府公立、将軍家家族のための菜草園。漢方薬草の栽培、採葉。小石川菜園が有名
 - ② 現在は都立中央卸売市場豊島市場。昭和12年駒込から移転
- 11) 本妙寺
 - ① 法華宗。16世紀駿府で創建、本郷丸山をへた明治44年現在地へ。本堂=自由参拝
 - ② 振袖火事供養塔=4代家綱期明暦3年(1657)1月本妙寺から出火、通説では振袖を焼いた火が火。3日続き、江戸の7割を焼失、死者10万人。江戸城も天守閣、本丸殿舎など全焼
 - ③ 遠山景元の墓=江戸末期の北町、南町奉行。遠山桜のいれずみを肩にテレビでお馴染みの名奉行
 - ④ 千葉周作の墓=江戸末期の剣客。幕末3剣士の一人
 - ⑤ 関宿久世6万8千石墓所=市原ゆかりの初代広之以下歴代藩主墓が整然と並ぶ
 - ⑥ 旗本久世三四郎の墓=7千石。白柄組副首領。荒木又右衛門伊賀鍵やの敵討で河井又五郎を支援。

12) 慈眼寺

- ① 浦里、時次郎比翼塚=新内、歌舞伎。仲を反対されて心中、死後の世界で一所に。
- ② 墓地に谷崎潤一郎、芥川龍之助、司馬江漢、吉良邸で討死の小林平八郎の墓。塀外から垣間見る

13) 染井霊園

- ① 江戸時代の林田建部家1万石下屋敷跡
- ② 明治5年に作られた都宮霊園。面積7ヘクタール。高村光雲、光太郎、智恵子、岡倉天心ら眠る
- ③ 徳川水戸昭武家など大名墓多数
- ④ 市原鶴舞藩井上家6万石、正直の墓ほか、支藩で同じく市原ゆかりの高岡井上1万石の墓所も。

14) 十二地蔵

- ① 地蔵菩薩(地蔵信仰)=死者を解脱の道へ導く。冥界にいくものに救いの手を室町~江戸時代に定着。石仏のなかでもっとも多い。頭を丸め袈裟かけ、宝珠、錫杖。
- ② 六地蔵=地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天道道。死後の世界に救い。はじめ別々に建立されたが1か所に。珍しい形。

15) 勝林寺 (臨濟宗)

- ① 田沼意次の墓=江戸中後期の首席老中。賄賂政治を続けた悪徳政治家として知られるが重商主義経済推進などの功績も。失脚没後、1万石への降格、財産没収。

16) 染井吉野のふるさと (染井児童公園)

- ① 「植木の里染井」看板(要旨) 江戸時代、柳沢、藤堂邸などの庭手入れに駆り出された農民たちが専門職になり、植物の交配を重ねて多くの新品種を生み出した。江戸中期、伊藤一族の活躍などでツツジやサツキの名所に。
- ② 「わたしたちの町は染井吉野のふるさと」看板(要旨) 染井吉野は大島桜と江戸彼岸桜の交配、江戸末期染井村の植木屋伊藤伊兵衛が開発した。

17) 大師道道標と藤堂家下屋敷門

- ① 大師道道標=この先西福寺(真言宗)の道標。幕府御用、天才植木屋伊藤政武の墓など。
- ② 藤堂藩邸の門=江戸時代大名屋敷内の重臣邸門。通称丹羽門。棟門に控柱のついた変形だが、32万石大名門とはいえない

有志組は駒込駅から乗車します。解散組で合流したい方は80分後に駒込駅南口(開会式の場所)に集合ください。

重要=次回案内 夏期研修会のスケジュールが決まりました 第32回「夏期研修会」8月4日(水曜日)八幡公民館視聴覚室13時30分から

- ① 徳川11代将軍家斉とその女たち=家斉時代と大奥 山岸弘明
 - ② 新選組からみた幕末史 竹内 克
- 当日、第34回(最終回)「信濃路の小諸城と上田城を歩くバスツアー」(参加費6500円)の参加申し込み受付を行います。奮ってご参加ください。

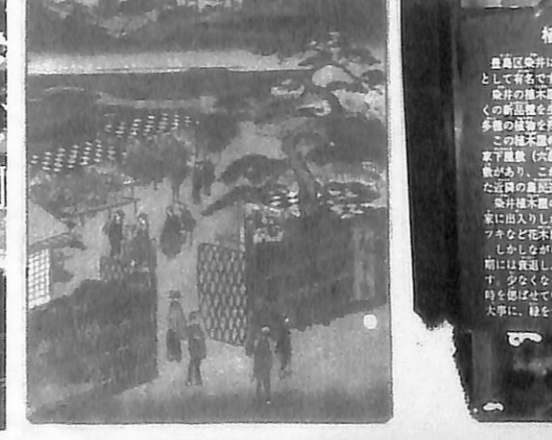


↓振袖火事、寺 ↓遠山全四郎の墓 ↑菜園跡 ↑本妙寺 ↓久世家、墓

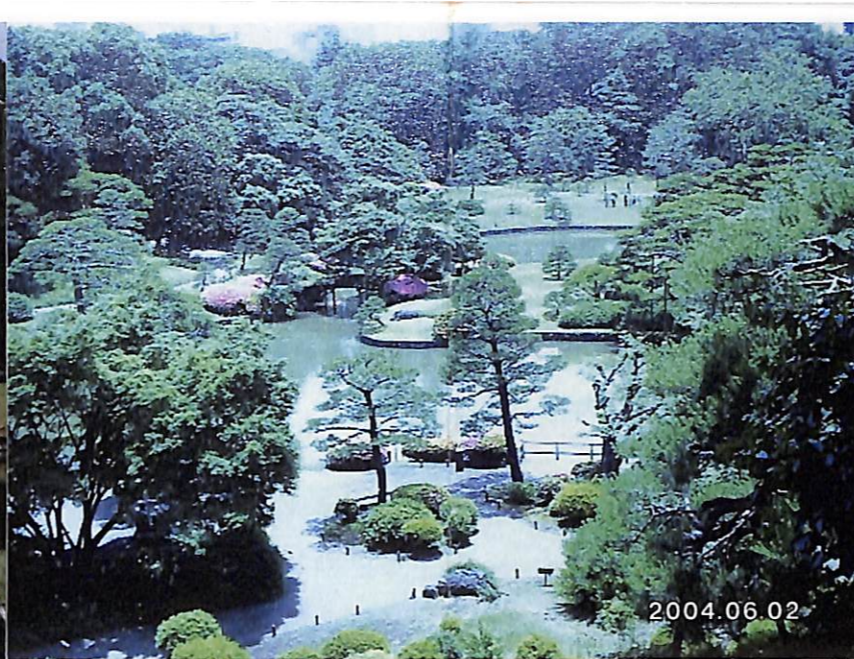
↑染井霊園

←植木の里、染井 ↑井上流の墓

↑十二地蔵



←屋敷内

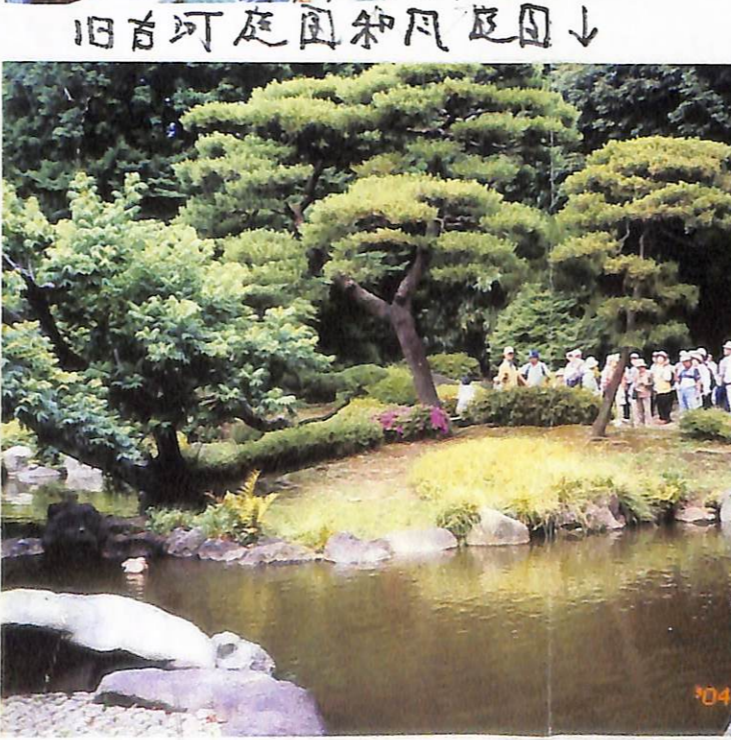


城と史跡を歩く会 第32回*平成16年6月2日(水曜日)
 「柳沢吉保の六義園と旧古河庭園、とげ抜き地蔵を歩く」ALBUM

主要コース
 駒込駅10時着、六義園、旧古河庭園、巣鴨駅に移動、真性寺、高岩寺。
 (以降有志で)本妙寺、染井霊園、藤堂家屋敷門
 参加者(48名=あいうえお順)
 青木千津子、熱田百代、猪野春枝、板倉 満、今井勝昭、今井さち子、
 今井典夫、卯月富子、大岩勝男、大谷安弘、小北絢土、荻田恵子、
 加藤幸子、金子昭夫、金子幸枝、神林敏夫、桑原絹枝、小出敏子、
 斉藤定子、佐倉光子、笹島 稔、渋谷奎吾、渋谷恵美子、白土貞子、
 鈴木クニ子、鈴木淳子、鈴木洋子、高城正雄、高城富子、武見敏治、
 近久芳彦、千葉範子、中村節子、西村澄子、藤田康雄、堀口妙子、
 山田恵美、吉池一彦、吉池町子、吉水正子、若菜幾世、渡辺清枝。
 山岸弘明、小出惣治、高澤恒子、鷺津寛子、藪本テイ子、高澤 毅。
 写真=高澤 毅、高澤恒子



麻会式
いざスタート



→
日光街道